

事業概略書

痴呆性高齢者のための「その人中心の介護」の開発

痴呆の人の体験世界を基盤とした対人援助と環境づくり統合アプローチ
の開発～痴呆の人の安らぎと潜在力の発揮にむけて～
東京都（報告書 A4判 100頁）

事業目的

痴呆の人が安らかに、そして潜在力を発揮しながらその人らしく暮らしていくことを支える『その人中心のケア』の推進していくために、『痴呆の人の体験世界』の特徴を基盤とした対人援助と環境作りを統合したアプローチの検討と試行を行い、有効性と一般化にむけた課題を検討する。

事業概要

1. 痴呆の人の環境作りとケアに関する学識経験者、実務者計7名による研究委員会を組織し、委員会および作業会議を計12回開催。
2. 痴呆の人の体験世界の特徴に関する調査：痴呆の人の手記および痴呆の人のセルフヘルプグループ（DASN）の会員による公開情報等基礎データとして、体験世界に関する記述を抽出し、体験世界の特徴に関して質的分析を実施。
3. 体験世界の特徴に即した環境作りと対人援助の試行と検証：体験世界の特徴を踏まえ、以下の手順で一連の環境作りと援助を実施した。フィールドは、現行サービスの中で最も痴呆の人の環境作りが急務と考えられる旧来型の大型施設（40名のユニット）である。入居者のバックグラウンドの把握と馴染みの生活環境、暮らし方の把握。施設内共用空間内に利用者にとっての『馴染みの場』を設置。入居者に関する情報、反応等をもとに『馴染みの場』を活かした暮らしの支援と場の手入れを実施。以上の経過の中での、入居者、介護職員、入居者家族の行動調査（参与観察）。
4. 体験世界を基盤とした環境づくりと対人援助に取り組んでいる国内の先駆的地域の調査：実地参与調査。関係者インタビュー調査。

事業結果

- 1) 痴呆の人の体験世界の特徴：痴呆の人の「危機」「再生」「新生」の体験が確認されたとともに、痴呆になっても本人が可能性を試そうとしている場面が数多く存在し、可能性を支える環境作りを本人が切望していること、その環境は本人にとっての「なじみ」がベースであることが確認された。痴呆の人が安定し、潜在力を発揮しての日々の暮らしを豊かにするためには、直接的にも、間接的にも環境作りが不可欠であり、その環境は本人の個別特性や希望に即しながらケア関係者がケアの一環として常に手入れし作り替えていくことの大切さが示された。
- 2) 体験世界の特徴に即した環境作りおよび対人援助の試行と検証：入居者のみではなく、職員、家族に身体面、精神面、社会面にわたる多様な有効性が確認された。
- 3) 先駆的地域の調査：以下のような先駆的な取り組みの把握を行った。
 - ・大型施設と地域民俗資料館と協働での公開なじみの場作り
 - ・痴呆ケアの行政関係者と地域博物館との共催の地域ケア教室
 - ・痴呆ケアの行政関係者と地域博物館との協働での地域の馴染み空間の拠点作り
 - ・近隣の人々との協働でのグループホームやデイサービスの馴染みの場作り
 - ・地元風土を活かしたグループホーム入居者の仕事（農、酪農など）の場作りなお、本年度の研究成果に関する研究報告会を開催した（参加 220 名）。本研究テーマに関する学際的、職際的な関係者の討議、ネットワーキングの機会となった。

【成果】

1. 痴呆の人の体験世界の特徴の把握
2. 痴呆の人の体験世界の特徴を踏まえた環境作りと対人援助の試行と有効性、課題の確認
3. 体験世界を基盤とした環境づくりと対人援助に取り組んでいる国内の先駆的地域活動例の把握
4. 研究報告会と本研究テーマ関係者のネットワーキング

事業実施機関

東京都 社会福祉法人浴風会 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-12-1

03-3334-2173